

179. 睪丸腫瘍と α -fetoprotein (第2報)
Radioimmunoassay 法と Hemoagglu-
tinate reaction 法による AFP 値の比較

東京慈恵会医科大学 泌尿器科

上田 正山 三木 誠 木戸 晃
町田 豊平

睪丸腫瘍患者に対する α -fetoprotein (AFP) 測定の意義を検討しているが、今回は Hemoagglutinate reaction (HAR) 法と、Radioimmunoassay (RIA) 法による AFP 測定を比較し、その臨床性を検討した。

対象：昭和49年8月以後、当科に受診した睪丸腫瘍患者16名（精上皮腫8名、奇形腫2名、胎児性癌1名、奇形癌3名、絨毛上皮腫2名）。

〔方法〕 睪丸腫瘍患者の同一血清を RIA 法と HAR 法（持田製薬測定キット）によって AFP を測定した。

結果：精上皮腫8例は全例 RIA 法で20ng/ml 以下、HAR 法で陰性であった。奇形腫は2例とも RIA 法で20ng/ml 以下、HAR 法では陰性。胎児性癌1例は RIA 法で84ng/ml を示し、HAR 法では100ng/ml で陽性。奇形癌3例は、RIA 法で310, 72, 180ng/ml で HAR 法でおのおの200, 100, 200ng/ml で陽性を示した。また絨毛上皮腫2例では RIA 法で10, 32ng/ml であったが、HAR 法でいずれも陰性であった。

〔結論〕 胎児性組織を含む睪丸腫瘍では RIA 法にて AFP 20 ng/ml 以上を示すことが多い（約80%）が、RIA法は手技がやや複雑で一般臨床向きではない。それに反し、HAR 法は手技が簡単で短時間で AFP を100~200ng/ml 以上の単位で測定することができる。したがって、HAR 法によって胎児性癌の迅速なスクリーニングはできるが、AFP 低値の腫瘍、あるいは術後の観察には高感度の RIA 法がよいと考える。